

東京五輪を北海道桜でおもてなし 雪氷技術で保存、運搬

プロジェクト委員会発足

北海道の雪氷技術を使って保存した開花を遅らせた桜を、真夏の2020年東京オリンピック・パラリンピックのおもてなしに使うというプロジェクト（北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会、発起人代表・越智文雄あかりみらい社長）が、このほどスタートした。

このプロジェクトは、全道179市町村から100本以上の選定された蕾桜を約2万本集め、空知管内沼田町の雪氷庫に保存。オリンピックの開催に合わせて、会場に運び開花した北海道桜で大会を盛り上げる計画だ。

越智代表は「東京オリンピック組織委員会などと調整が進み来夏には実験を行う。その結果で判断されるが、関係者からは大きな期待が寄せられている」と積雪寒冷地の北海道の雪氷技術を世界にアピールする。

また雪氷技術のほか、アイスシェルター実験、オホーツク流氷搬送実験などを行い、さらなる成功に結びつきたい考えだ。越智代表は08年の北海道洞爺湖サミットで環境総合展の事務局長を務めていた。「環境展では、雪氷技術で桜の開花、オホーツクの流氷展示など



雪氷技術で保存する開花前の蕾桜
札幌市

を手がけた。この実績を東京オリンピックにも生かしたい」と話している。

具体的には、マラソンコースなどの沿道にバリケード代わりに北海道の雪柱を設置するなど、競技選手や観客の涼が取れるとともに、自然冷熱エネルギー活用を環境改善につなげたいとしている。また、この9月の北海道胆振中部地震の復興にも役立てたい考えだ。